

研修医の手記



2024年より市立釧路総合病院にて初期臨床研修医としてお世話になっております西永和生と申します。この度は誌面でご挨拶させていただく機会をいただきまして光栄に思います。

私は神奈川県生まれ札幌育ちであり、昨年の3月に病院見学で初めて釧路市に足を踏み入れました。地に降り立ち、顔を上げると一面真っ白で異世界に迷い込んでしまったような錯覚に陥ったのを今でも鮮烈に記憶しています。

まだ釧路ライフはたった3ヶ月しか経っていないのですが、春採湖周りを駆けまわる鹿や少し油断すると病院の窓の外が真っ白になっているこの土地独特の雰囲気が好きになってきたところです。

研修医としてはまだまだ未熟であり、上級医の先生をはじめ多くの病院スタッフの方々にご指導、ご助言いただき日々精進しております。研修医になって思うことは、病院とは多くのプロフェッショナルの集まった組織であり、どの職種を欠かしても成立し得ないということです。患者様に最適な医療を提供し、元あった日々に戻してあげることは医師のみの力では不可能で、様々な部門や部署の方の奔走が必要不可欠であるということをたった3ヶ月の臨床研修にも関わらず痛切に実感しております。

知らないことばかりで目まぐるしく日々が過ぎていきますが、今抱えている多くの方への感謝を決して忘れないように努力をし続けていく所存です。至らぬところも多々あると思いますが、2年間何卒よろしくお願い申し上げます。

医療連携相談室のご紹介

医療連携相談室では職員のスキルアップを目的に毎週朝20分ほど、手話の学習会を始めました。

講師の先生を招いて、聴覚障がいについての学習や、手話での基本的な挨拶などを学んでいます。

今後は患者さんやご家族との円滑なコミュニケーションに活かしていきたいと思っています。

“朝活”
始めました!



主幹
澤村 真希

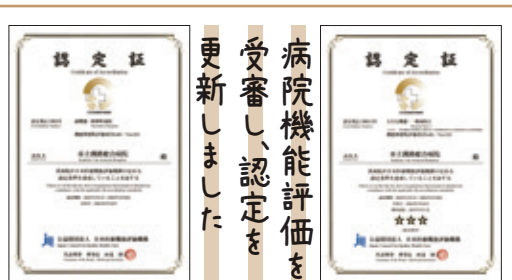
新人紹介



退院調整看護師
山名田 久満子

4月から医療連携相談室主幹となりました澤村です。これまで助産師、病棟の看護部長を経験してきました。今までの経験を生かし、出生から終末期まで幅広い対象の方へのケアを行っていきたく考えております。更に、来年度には患者総合支援センターの開設を予定しております。入退院支援、病床管理、地域連携、医療・介護・精神相談を1つにし、多職種が連携してより安心・安全な入院医療が提供できるように努めていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度までは訪問看護室に在籍し、今年度より医療連携相談室に配属となりました。患者・家族を中心に地域支援者と連携してきた実践経験を活かし、患者・家族が希望する退院後の生活イメージを実現できるよう医療SWと共に円滑な退院調整ができるよう尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



当院は2018年3月に初回認定され、本年1月に2度目の評価を受審し、認定を更新しました。今後も医療技術、院内環境等、時代に合わせた変化に対応し、釧路・根室地域の高度専門医療と救急医療における当院の責務を果たしつつ、質の高い医療を提供するため、職員一同努力してまいります。

公式
Instagramを
開設しました



当院の情報を発信するため、Instagramアカウントを開設しました。当院の魅力や採用情報を随時載せていきますので、ぜひフォローをお願いします。

ご挨拶



市立釧路総合病院 院長

森田 研

6月2日(日)に関係各位にお集まりいただき、厳島神社の神職により市立釧路総合病院新棟建設等事業の起工式が執り行われました。正面駐車場の工事区域に設けられた盛り土と祭壇に玉串奉奠を職員一同で行い、工事の安全な施工・進捗を祈りました。正面駐車場の病院側半面が工事区域となりましたので、患者用駐車場の縮小のため立体駐車場が混雑しております。今後さらに病院アクセスに制限・変更が加わりますが、診療・地域連携に影響が出ないよう安全管理を強化してまいりますので何卒ご協力をお願いいたします。

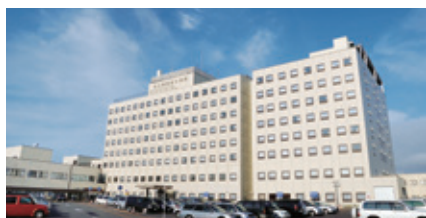
2018年の実施設計段階で前回JVとの協議が中止となってから、今回の工事着工までの5年間でCovid-19のパンデミック対応と地域連携の重要性を再認識しました。新しい院内感染管理や救急導線を取り入れた病院建設に向けて、現在は蒸気配管の移し替えと救急車両の搬入導線の変更を行っています。今年の秋には正面駐車場敷地に新棟の建築着工を予定しています。

6月7日(金)には日本水難救済会の名誉総裁高円宮久子妃殿下より表彰状が授与されました。昭和60年以降の当院の洋上救急における医療活動30件に対して「洋上救急功労団体表彰」として審査委員会に選定されました。釧路地区は4つの病院で洋上救急を分担しており、釧路地域全体の諸組織の協力体制が評価されたものです。洋上救急に関わる皆様の診療業務蓄積に感謝申し上げます。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号
TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

エキスパートナーズ紹介 Part.26

現在当院では、2分野の専門看護師2名、11分野の認定看護師が活躍しております。

また、認定看護師のうち4名は特定行為研修を修了し、色々な場面で習得してきた技術を患者に提供しています。私は2024年度、クリティカルケア認定看護を取得しました。今回は、クリティカルケア認定看護師の活動を紹介します。クリティカルケア認定看護師とは、2020年度から救急看護分野と集中ケア分野が統合され、特定行為が組み込まれた新たな認定看護師分野です。突発的な事故や重篤な疾病など生命の危機的状態に陥っている患者と家族を対象に重症化回避と合併症予防、早期回復に向けた看護を行っています。また、現在所属している救急外来スタッフへの指導、相談も行っています。特定行為の実践では末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入、橈骨動脈ラインの確保、直接動脈穿刺法による採血を中心に行っています。患者の安全、安楽を最優先の上で適切なタイミングに特定行為を実践できるように心がけています。今後は、質の高い看護が提供できるように組織横断的に活動することを目指していきます。

看護部 救急外来 クリティカルケア認定看護師 鈴木 克俊



～新病院建設～

現病院は1984年に建設して以来、数度の改修により外観は維持してきましたが、24時間365日止まることなく稼働しており、施設の老朽化が進んでいます。それに加えて、施設が狭く、最新の大型医療機器の導入が出来ない状況であることや、災害発生時に災害拠点病院としての役割を十分に果たすことが困難等の理由から新病院の整備を進めています。

新病院ではハイブリッド手術室を整備し、高度医療の提供、手術時間の短縮や患者の負担軽減を図ります。また、救命救急センターを持ち、釧路・根室地域の三次救急を担う病院として、機能を充実させるため救命救急病床を設置します。

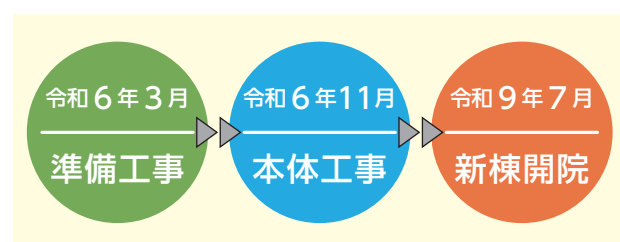
新病院の概要

新棟規模
地上12階 地下1階
総病床数
535床



新病院パース図

スケジュール



起工式

6月2日（日）に起工式を執り行いました。当日は天候にも恵まれ、蝦名市長、森田院長をはじめとした病院関係者、設計・工事関係者が列席し、議会や行政機関から数多くの来賓の方にも足をお運びいただきました。

地鎮之儀では発注者代表として蝦名市長が「エイ！エイ！エイ！」と気合の入った声で盛砂に鍬を入れ、工事の無事と完了を祈願いたしました。

今後は新棟建設に向けて工事が本格化いたします。進捗状況等についてはホームページにて随時更新していきますのでご覧ください。



鍬を入れる蝦名市長

能登半島地震 災害医療支援活動報告

2024年1月1日に発生した能登半島地震に伴い、当院のDMAT・DPATチームが現地での災害医療支援を行いました。被災地域の皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。

当院からDMATチーム3部隊、DPATチーム1部隊を派遣しました。実際に現地で支援を行った隊員による活動報告をさせていただきます。

私たちのチームはDMATの第一陣として活動しました。被災地では、至るところで道路の陥没や倒壊した家屋がたくさんあり、衝撃的な光景でした。私たちは、主に入院中の患者さんや受診に来られた方の搬送手段を調整する活動を行いました。直接被災者の方と関わる機会は多くはなかったですが、関係者職員を含め心身疲労しているのを目の当たりにし、被災地すべての人が被災者であり、様々なサポートが必要であると実感しました。また、被災地の山中で、車のタイヤがパンクし携帯も繋がらない状況の方に遭遇したため、行き先の避難所まで送迎しました。後日、お礼の連絡を頂き、私たちの活動で少しでも被災者の助けになることは大変嬉しく感じました。

今回の様々な経験を活かし、平時からの災害への備えをしっかりと行っていきたいと思います。

（DMAT 1回目：古川）

当院のDPAT隊（精神保健指定医、看護師、精神保健福祉士、薬剤師）は1月18日～1月21日の日程で石川県能登町役場を拠点に被災地の支援活動を行いました。

被災地では、精神科の定期受診が中断してしまったことによる不調や、避難所生活でのメンタル不調を抱えている被災者に対して状況確認を行いました。また、施設職員の疲弊状況の確認を行い、その際には他県DMAT隊と連携して対応しました。状況把握の結果、行政にも介入してもらい、DMAT隊の看護師が夜勤の支援に入ることとなり、迅速な具体的支援に繋げることができました。

被災地での活動は、それぞれ多職種が自分の役割を果たしつつ、迅速に判断し適宜サポートし合う姿勢が円滑な活動に必須であると感じました。

（DPAT：小林）

DMATとは

「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」であり、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

DPATとは

被災地域の精神保健医療ニーズの把握、他の保健医療体制との連携、専門性の高い精神科医療の提供と精神保健活動の支援等を行うために組織された災害派遣精神医療チームです。



チームメンバー
泉谷 菅野 古川 豊原／DMAT 1回目



チームメンバー
寺田 鈴木 富永 小野／DMAT 2回目



現地での会議の様子



チームメンバー
豊原 本間 齊 菅野／DMAT 3回目



チームメンバー
小林 大島 三上 高村／DPAT